

## 第6回 蓄電池産業戦略推進会議 議事概要

日時：2026年3月5日（木）15時00分～17時05分

場所：Web 会議

### 議事要旨

「資料3：蓄電池産業戦略の推進に向けて」を事務局より説明。「資料4：定置用蓄電池強化に向けた電池工業会の取組」を電池工業会より説明。「資料5：蓄電池産業戦略の推進に向けた取組進捗」を電池サプライチェーン協議会より説明。「資料6 電気自動車用革新型蓄電池開発（RISING3）の進捗及び今後の電池開発について」を新エネルギー・産業技術総合開発機構より説明。「資料7：「これまでの会議を踏まえた整理」からの進捗状況」を製品評価技術基盤機構より説明。

### 1. 国内基盤拡充のための政策パッケージ

- 多様な電池への取組は良いと思うが、事業性をもった取組にできるかが重要。また、日本の電池は安全性が高いため、このような高い安全性を有する電池が、その価値を適切に価格に転換・評価される市場環境の構築が必要。
- 製造装置で異業種の企業間連携は今までにない取組。多様な電池にも対応していけるとよい。

### 2. グローバルアライアンスとグローバルスタンダードの戦略的形成

- 世界市場で日本の電池の品質が評価されるよう、グローバルスタンダードを定着させる絶え間ない努力を行っていききたい。

### 3. 上流資源の確保

- 上流資源について、電池材料、特にサプライチェーンリスクの大きいものは優先的に対策する必要がある。
- EV 需要が不透明性と言われるが、原料調達の不透明性も増しており、情報を収集してニーズにタイムリーに対応できる体制を構築したい。
- 原材料を含むサプライチェーンの強靱化は喫緊の課題となっているが、個社で解決することは難しく、国と業界が一体となった取組が必要。
- 蓄電池の重要性は変わらないため、長期的視点でしっかり取り組む必要あり。特に国内での製錬能力の確立に向けて引き続き取り組みたい。

### 4. 次世代技術の開発

- 次世代電池は資源制約回避や安全性の観点から経済安保との親和性が高く、今後ロードマップの策定を含めて民間資金が入ってきやすくする施策が必要ではないか。
- GteX では、将来を見据えた技術開発のみならず、企業に使っていただける電池の開発も行うなど、産業界のニーズに応えられる研究を進めていきたい。
- 資源を多様化できる電池を開発していくことが経済安全保障上の重要性につながる。新たな電池の産業化には長い時間を要するため、技術開発の取組を進めておくことが必要。

○これまで車載用で研究開発してきたが、多様な電池に対応する必要がある中で、研究の方向性も見直す必要があると思われる。新たな材料開発も、車載用では使えなかったものでも、他の用途の電池として使えるものがあると思料。

## 5. 国内市場の創出

- 電池工業会で海外製電池を評価したことは非常に重要。特に LFP 電池について、発火リスクが見つかったことを世の中に適切に情報提供いただくことが大事。また、耐熱焼性について、製品毎の安全性の違いが適切に評価されるよう、ガイドラインを広く普及させていくことも重要。
- 国連では電池が事故を起こす前提で議論されているが、日本は事故を起こさない前提で開発・議論されているので海外勢より高度な展開がなされている。したがって日本としては、海外勢より一歩進んだ基準づくりが重要。製品によっては JIS C 8715-2 も規格自体では安全性が十分に担保されていない場合もあるため、より安全性が担保されるガイドラインを作っていただきたい。
- 将来のエネルギーセキュリティ、カーボンニュートラルと産業活性化を見据え、蓄電池産業の重要性が高まることは間違いない。蓄電池は、半導体同様に製造基盤やサプライチェーン構築が開発に加えて非常に重要であるため、今から需要を意図的にでも作っていくことが必要。
- 定置用蓄電池は安全性・長寿命の観点から日本の強みが活かせる領域と思料。日本の安全性・長寿命が正当に評価される市場環境整備の促進をお願いしたい。
- 日本が強みとする安全性が適切に評価されることが重要であり、日本の蓄電池産業に資する補助金制度とすべき。

## 6. 人材育成・確保の強化

- BATON やスキルセットの可視化は非常にすばらしい取組。こうした取組が 2030 年に 3 万人の目標達成に見合うベースであるか、しっかり見ていく必要がある。
- 電池に対する世の中のニーズが多様化している中で、日本の多種多様な電池の開発は、見方によってはチャンスとも考えられる。長い目で見た人材育成、最先端電池の開発支援も大事だが、足下の電池産業強化や資源循環のための人材育成も重要。両輪で分厚い人材育成や産業育成も兼ねた仕組みづくりをしていただきたい。
- セルだけでなく、BMS や総合的なシステム等のレイヤーにも施策を検討すべき。BATON でもこうした視点を持って人材育成・確保に取り組むことも必要。関連の強い半導体分野とのコミュニケーションを促進することも一案と考える。

## 7. 国内の環境整備強化

- 電池リサイクルについて、ブラックマスの確保が非常に難しいことが最大の課題。バッテリーパスポートにより電池価値の見える化を進め、廃電池の海外流出を防ぎ、循環型の国内サプライチェーン確立を進めるとともに、原料調達や国内部素材の生産コストへの支援も引き続きお願いしたい。